

「第6回 おいしいね たのしいね！」 地域貢献事業開催報告

塩田博子・堀尾昇平・芳賀絵美子・濱田英司・吉原達也

Report on the sixth “*It’s a delicious and Fun !*”

Extention Lecture Jointly Organized by the Departments of
Nutritional Science and Early Childhood Education and Care

by

Hiroko Shiota, Syohei Horio, Emiko Haga, Eiji Hamada, Tatuya Yoshihara

要旨

本稿は、平成25(2013)年度に初回開催して以降、年1回の頻度で開催している本学主催の地域貢献活動「第6回 おいしいね たのしいね！」に関する報告である。栄養健康学科教員・ボランティア学生を主体とした「親子クッキング」、保育学科教員・ボランティア学生を主体とした「親子でふれ合う活動」(手作りおもちゃ制作・伝承あそび等)を行う両学科による親子体験活動は、過去5回とも参加家族から好評であった。平成30年度は同じ趣旨ではあるが、対象者の年齢を「おいしいね！」を幼児期、「たのしいね！」を学童期に分け、講座を開催した。過去の活動と比べて特記すべき点は、第3回目から5回目までは「子どもゆめ基金」(独立行政法人 国立青少年教育振興機構)の助成を受けた地域貢献事業として開催したが、今回は下関市教育委員会生涯学習課の主催による家庭教育推進事業の一環として実施した。これは産官学の中で本学と下関市が連携で行った。また、過去の開催に基づき、①託児、②開催回数(日数)、③食育活動(栄養健康学科教員担当)、④親子活動(保育学科教員担当)、⑤参加者の年齢等を検討して実施した。過去の開催と同様、主な開催目的である「地域住民に対し家庭における「食育」の重要性を伝える」「親子がふれ合う時間と遊び(初回・2回:手作りおもちゃ、3回:伝承遊び、4回・5回:大型工作体験6回:小型工作体験)の良さを味わう機会を提供する」双方を概ね達成することができ、参加学生も「食育」「保育」及び「家族の交流(ふれ合い)」の重要性を学ぶ機会を得ることができた。今後も双方の学科の特性を生かした地域貢献事業を継続し、「食育」「保育」、双方に関連した触れ合いの場を提供することを通じて地域貢献を実現していきたい。

キーワード：食育基本法、食育推進基本計画、子育て支援、親子クッキング、保育、
絵本読み聞かせ、家族交流、竹細工、竹風鈴

1 はじめに ―本事業報告の趣旨―（事業開催起案者：塩田博子）

内閣府は、平成 28 年度から平成 32 年度における「第 3 次食育推進基本計画」において「若い世代を中心とした食育の推進」「多様な暮らしに対応した食育の推進」「健康寿命の延伸につながる食育の推進」「食の循環や環境を意識した食育の推進」「食文化の継承に向けた食育の推進」以上 5 つを重点課題とし、食育推進活動を行っている¹⁾。下関でも「第 2 次下関ふちうま食育プラン」（計画期間：平成 25 年度～ 29 年度）を策定し、食の重要性と食育の周知そして実践へと進めてきた。さらに平成 30 年度からは、第 2 次計画を見直し、引き続き市民一丸となつての実践の輪を広げていける「第 3 次下関ふちうま食育プラン」を策定した。市民の健康と健全な食生活の実現のため、食の安全性の確保はもとより食に関する感謝の念や理解を深め、様々な分野で横断的な食育の推進が必要となっているため、食育を総合的・計画的に推進していくこととなった²⁾。

このような社会的動向に基づき、本学では 2 学科（栄養健康学科・保育学科）の専門性を生かした地域貢献事業「おいしいね たのしいね！」を平成 25 年度より開催している³⁾。

最初に過去 5 回の概要を振り返りたい。開催時期は毎年 6 月が「食育月間」となっているため 6 月の開催を主軸として実施してきた。開催日数は、平成 25 年度第 1 回は 1 日間、平成 26 年度第 2 回は当初 1 日であったが定員数超過の申し込みをふまえ合計 3 日間開催した⁴⁾。その後、平成 27 年度第 3 回、28 年度第 4 回、29 年度第 5 回は、各回合計 2 日間開催した^{5,6,7)}。参加者の満足度について実施アンケートの回答をみると、「今日一日を楽しくすごしたか」に対して「はい」という回答が、平成 25・26・28・29 年度共に 100%、27 年度は 97%を得ることができた⁴⁾。また、前回の平成 29 年度アンケート自由記述欄に「家で一緒に料理を作ったりするのはイライラしただけけれど、皆で作ると私もとても楽しく過ごせました。」「毎年楽しみにしています!!先生方のアイデアや企画やご準備など本当に感謝しています。」という回答をいただいたが、一方では、「親子クッキングは家族単位で家族分の料理が作れると、他のご家族に気がねせず作れるのでは、と思った。」という家族単位での活動を希望する声や「料理だけ午前・午後でも OK です。」という開催時間の短縮についての意見なども頂いた。

このような過去 5 回の参加者満足度・開催スタッフの反省会に基づき食育・保育・家庭交流の推進を図るため、継続的な講座の開催が必要であると分析し、平成 30 年度第 6 回「おいしいね たのしいね！」事業を行うこととなった。

但し、開催にあたり第 3 回より助成を頂いた独立行政法人国立青少年教育振興機構「子ども

ゆめ基金」(平成13年創設、以下「子どもゆめ基金」と略記)に今回は応募しなかった。平成29年度の参加者アンケートの意見として出されていた「家族単位で家族分の料理が作れると、他のご家族に気兼ねせず作れるのでは、と思った。」「料理だけ午前・午後だけでもOKです」など家族単位や、開催時間の短縮などを考慮して行うこととした。そこで、今回は、市内の保育園・幼稚園・こども園・小学校に下関市教育委員会生涯学習課が主催としている夏休みの「家庭教育推進事業」を行っていることを知り、本学の地域貢献事業の内容を持ちかけたところ、受け入れていただくことができ、市との連携の中で実施することとなった。

第5回(前回)との大きな相違点は、昨年のアンケートでの意見、および「家庭教育推進事業」が通常主催している各行事と足並みをそろえるため「おいしいね たのしいね!」を「おいしいね!」(食育)プロジェクトと「たのしいね!」(工作)プロジェクトに分割して、それぞれ別日の午前中に開催し、対象者を変更したことである。

「おいしいね!」プロジェクトでは、まず一つ目に、対象年齢の変更を行った。昨年度までは3～5歳(年少児～就学前)とその保護者としていたが、「家庭教育推進事業」として内容を検討した結果、包丁の危険性、調理工程などから対象幼児を年中・年長に限定した。二つ目は、調理台の使用方法である。昨年度までは調理台は1台につき、1～3組の家族で班分けをしていたが、昨年のアンケート結果および家庭教育推進を目的とした事業の一環として、“家庭に帰ってもできるように”という視点から、調理作業は家庭ごとに行い、調理台を1～2組で共用することとした。

「たのしいね!」プロジェクトでも、まず一つ目に、対象年齢の変更を行い小学生とした。二つ目は「おいしいね!」プロジェクトとはテーマに関係性を持たせなかったことである。本学保育学科音楽指導教員が、研究課題としている竹楽器制作に関連性のある下関の竹を使用し、竹風鈴を制作することとした。刃物の使用など技術的なことから、対象者は小学生とその保護者とした。三つ目は、家庭ごとで制作することである。第4回・第5回は、大型の工作を皆で力を合わせて作ったが、家庭教育推進の目的から、各家族で楽しく作成し、完成品を持ち帰ることとした。

以上のような経過をふまえて、「おいしいね!」(食育)プロジェクトおよび「たのしいね!」(工作)プロジェクトは、下関市教育委員会生涯学習課の主催による「家庭教育推進事業」の一環として実施することとなった。次章では、過去5回とは特に異なる点を中心に「おいしいね!」(食育)プロジェクト(8月11日実施)、「たのしいね!」(工作)プロジェクト(8月9日実施)の順に「第6回 おいしいね たのしいね!」開催報告を行う。

2 実施準備について (担当教員：芳賀絵美子)

以下、今回の実施のための概要について、即ち実施前に準備した広報、募集 (参加者募集)、会計 (収入・支出)、託児・当日受付について記す。

【広報】

広報活動については、チラシの作成 (図1・2) から配布まで下関市教育委員会生涯学習課家庭教育推進事業事務局が行った。チラシ配布場所は、下関短期大学周辺の公立小学校、および市の施設であった。また、本学付属幼稚園用に200部のチラシをいただき、年中・年長組の全世帯に配布した。

開催に関する報道は、「おいしいね!」に関して、NHK山口放送局の取材による「情報維新!山口」内「GO TO キャンパス」コーナー (NHK総合・山口放送) で9月6日に約6分間の放映があり、当該ホームページにも放送内容と同様の動画が公開されている⁸⁾。

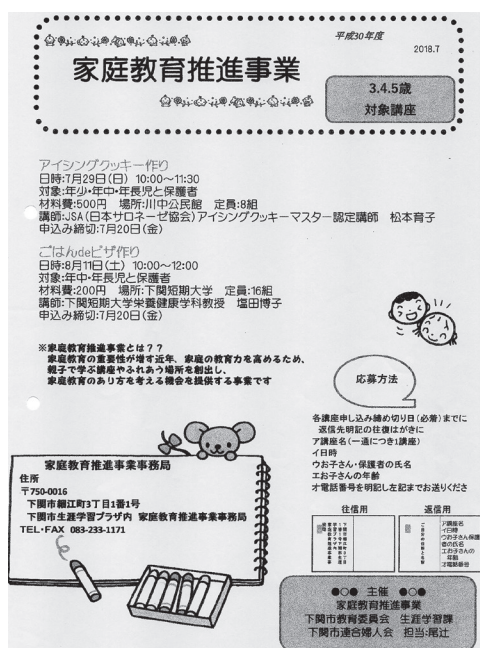


図1 「おいしいね!」プロジェクト
「ごはん de ピザ」掲載チラシ

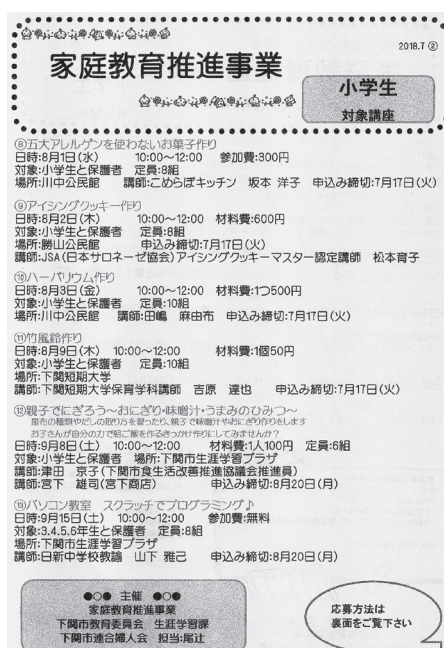


図2 「たのしいね!」プロジェクト
「竹風鈴作り」掲載チラシ

1章でも述べたように、「家庭教育推進事業」として内容を検討した結果、「おいしいね たのしいね!」として実施していた講座を「おいしいね!」(食育)と「たのしいね!」(工作)の二つのプロジェクトに分割し、それぞれ別の日に実施することとなった。募集 (参加対象)

は「おいしいね！」(食育)が年中・年長の幼児とその保護者16組、「たのしいね！」(工作)が小学生とその保護者10組とした。開催の時期は、教員の負担を軽減するために夏休み中とし「おいしいね！」(食育)8月11日(土)、「たのしいね！」(工作)8月9日(木)のそれぞれ1日間の実施とした。「おいしいね！」(食育)は、応募〆切が7月20日で15組の応募があり、当日は14組の参加であった。また、「たのしいね！」(工作)は、応募〆切が7月17日(火)で10組の応募があり、当日は8組の参加であった。なお、参加申し込みのとりまとめ、および参加者への通知はすべて下関市教育委員会生涯学習課家庭教育推進事業事務局が行った。

【会計：助成金・補助金・負担金】

今回は「家庭教育推進事業」として下関市より「おいしいね！」(食育)の材料費6,000円と消耗品費1,080円、「たのしいね！」(工作)の材料費1,000円の助成を受け、その中ですべて賄うことができた。大まかな支出の内訳は、「おいしいね！」は、食材料や割りばし等の消耗品、「たのしいね！」は、タコ糸や紙やすりなどの工作材料であった。

参加者に対するレクリエーション保険料については「家庭教育推進事業」が年間加入しているので、本学では手続きを行わなかった。

【託児・受付と班編成】

「家庭教育推進事業」を実施する際、他事業においても託児は行っていないということであり、今回は託児を見送った。

受付は、参加料徴収、本学が作成、準備したプリント配布など、すべて下関市教育委員会生涯学習課家庭教育推進事業事務局が担当してくれた。

班編成については「おいしいね！」(食育)は当日、参加者家族14組は各班2家族ずつに適宜分かれていただいた。「たのしいね！」(工作)は当日、参加者家族8組は家族単位で作業をおこなったため班は作らなかった。

3 実施内容報告

本章では、8月11日(土)：「おいしいね！」(食育)プロジェクト「ごはん de ピザ」(3・1)、8月9日(木)：「たのしいね！」(工作)「竹風鈴作り」(3・4)について内容の詳細を報告する。

3・1 「おいしいね！」(食育)プロジェクト「ごはん de ピザ」

3・1・1 献立作成(担当教員：塩田博子、芳賀絵美子)

今回は、「家庭教育推進」という観点に基づき、①親子一緒に楽しく調理、食事をする事などを通じて親子の交流を深める。②調理中の安全と衛生を楽しい環境の中で身につける。③親子への講話を行い、幼児の食生活の大切さ・季節の食材について親子で考える。④一連の活

動の中で「食」への興味・関心を深める。以上の4つを目的として実施した。

幼児にも親しみやすいピザをいつもと違う環境下で調理をしたり、家族と一緒に作った喜びを感じたりすることによって、苦手な食材も食べられるようになって欲しいとの思いを込め、献立作成を行った（写真1）（表1）。

献立作成については、平成27年度の「おいしいね たのしいね!」の際に実施した献立⁵⁾を改善して行った。但し、今回は時間を短縮して実施しなければならなかったため、サイドメニューの「サラダ」「スープ」「ヨーグルト」は省き、「ごはん de ピザ」のみに決定した。これは、昨年の「おいしいね たのしいね!」のアンケート「次回作りたいメニューは何がいいですか?」の質問に、「ピザを作りたい」とのご意見を頂いたこと、夏休み中、家族で楽しく作れる軽食や昼食として取り入れやすいものであることを考慮した結果である。一般的には小麦粉で作るピザ、手軽に作るにはパンを使用したピザトーストなどがあるが、今回は「ごはん de ピザ」とし、ピザ生地は、小麦粉を使用せず、「ご飯」と「つなぎ」に「じゃがいも」を使用した。これにより、小麦アレルギーのある者にも小麦の代替として食べることが出来る。また、塩・スキムミルク・バター・コショウを加えて調味し、味とコクを付けた。家庭に持ち帰って実践できる工夫点としては、①米とじゃがいもを炊飯器で同時に加熱できること②ピザ生地のように発酵の必要がなく家庭にある食品で手軽に作るができること③成形が容易であること、の以上3点である。ピザの具は、夏野菜の「ピーマン」「トマト」「なす」を使用することで、季節感を出すようにした。平成29年度、本学「幼児の食育ゼミ」が実施した付属幼稚園の食生活アンケートの中で嫌いな食品5位までに幼児期に苦手な食材として「ピーマン」「トマト」「なす」「ネギ」「きのこ」があげられることから、「ピーマン」「トマト」「なす」「きのこ」を使用した。また、今回はたんぱく源として幼児でも取り扱いやすい魚肉ソーセージを使用した。



写真1 当日の盛り付け例

表1 子ども1人分の栄養価

料理名	ごはん de ピザ
エネルギー (kcal)	262
塩分 (g)	1.1

3・1・2 調理班と配布資料について（担当教員：塩田博子、芳賀絵美子）

ひと班を1～2家族で編成した。前回同様、各班の調理台と担当の学生の名札にはそれぞれ動物マークを提示し、自分の使用する調理台等はどこなのかを認識しやすいようにした⁷⁾。また、材料は各家庭同じ分量ではあるが、調理台の中で取り違えないように材料のトレーにもそれぞれ動物マークを提示した。班分けの可視化によってスムーズに班へ移動することができ、材料の把握も容易であった。

配布資料は、受付にて各家庭1冊ずつ渡した。内容はレシピ「ごはん de ピザをつくろう!」、「みじたくをととのえよう!」（①身支度、②安全・衛生のための約束、③包丁・まな板の使い方について）（栄養健康学科教員作成、写真2）、以上2点である。「みじたくをととのえよう!」の内容は、前年同様である⁷⁾。

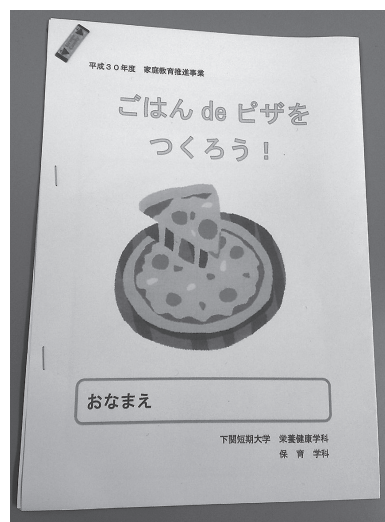


写真2 ごはん de ピザをつくろう!

3・1・3 調理前の説明について（担当教員：塩田博子、芳賀絵美子）

今回は開始前に保育学科による導入（手遊び）を行い、参加親子の注意を高めることで、落ち着いた雰囲気の中で説明を行うことができた。また、実施時期は気温が高い8月だったので、例年以上に食中毒や腐敗の進行などを考慮して、手洗いから調理の方法までのレクチャーを丁寧に行うことにした。まず、レシピを見てもらいながら、本日の献立名と各家庭2人分作成するというを確認してから説明に入った。以降のレクチャーは前述した媒体を使用しながら、①包丁の持ち方とふきんの使い分け等衛生や危険回避に関する事項の説明、②実際の食材を使った「ごはん de ピザ」の作り方の説明、③盛り付けと使用する食器の説明、④学生を手本とした身だしなみの確認、⑤学生を手本とした手洗いの練習、⑥危険回避のための「おやくそく」確認、⑦担当学生紹介の順に進めた。

3・1・4 調理「ごはん de ピザ」をつくろう（担当教員：塩田博子、芳賀絵美子）

今回は10時から12時まで2時間の講座であり、全体の時間から説明などを除いた調理作業時間（焼き時間除く）は最大50分である。また、スタッフは食育ボランティアとして、9名（栄養健康学科2年4名、卒業生3名、保育学科レクレーション担当の1年1名、2年1名）、教員4名（栄養健康学科3名、保育学科レクレーション担当1名）で実施した。そのため、ご飯とじゃがいもは開始時間前に下準備を行い、調理前の説明の間に炊飯した。目的の一つである「親子一緒に楽しく調理する」を達成するために、今回は子どもが中心になって行う作業と



写真3 各班に分かれての調理作業風景



写真4 班別のテーブルでの会食風景



写真5 食器の後片付け

して①ピザ生地を作成、②具のトッピング、③盛り付けに工夫をした(3・1・1)。①については、一緒に炊飯したご飯とじゃがいもをボールへ入れ調味料と共によくつぶし混ぜ、形を限定せず「くまさん」や「ハート」など家族ごとに思い思いの形に成形してもらった。②については、ソースを塗ったピザ生地にそれぞれの家族で下ごしらえした野菜を使いデザインを楽しみながらトッピングしてもらった。③焼きあがったピザをオープンから取り出し、ワックスペーパーを敷いたお皿の上においしそうに盛りつけてもらった。以上のように、随所に子どもが楽しんで作業できる工程を設け親子で達成感を味わえるようにした。

十分な時間を確保したつもりであったが、班により焼き始めが異なり、また、参加者に見学者や同伴者などが加わり、1家庭の材料で枚数を多く作った班もあったため、出来上がりが15分近く遅れてしまった。予定時間を超過したことは、幼児のいる家庭向けの講座としては好ましくない事態であったが、今回の時間超過は各家庭が時間を忘れて創意工夫をして楽しんでくれたことによるものと捉え、各家庭に声をかけたところ、時間超過は可能と快諾を頂いた。

ピザが焼きあがるまでの待ち時間は、保育学科によるレクリエーションを予定通り実施した(3・3)。このレクリエーションを実施することにより、焼きあがったピザの粗熱をとる時間も確保することができた。調理とは異なるレクリエーションを挟むことによって気持ちも落ち着き、その後の作業もスムーズに行うことが出来た(写真3)。しかし、調理の過程で子ども1名が包丁で手を負傷したため、残念ではあったが病院での手当のため途中で退室し、時間内に帰ってくることはできなかった。

会食は皆一斉に「いただきます」の挨拶をして始めた。家族同士が初対面の場合が大半を占めたが、会話が弾み、笑顔もみられる食事風景であった(写真4)。中には、調理前には苦手と言っていた食材を口にするとする幼児も見受けられた。

また、会食終了後は前回同様、食育面も考慮して、使用した食器は参加者にも片づけていた

だいた（写真5）。

3・2 講話（担当者：塩田博子）

当初、講話は予定していなかったが、参加者の意見を聞くために行った。内容は会食時に5分程度、調理中の様子や食材の好き嫌い、初めて食べたであろうご飯を使ったピザの味についての質問である。

調理については、「楽しかった人？」と呼びかけると、「とても楽しかった」とほとんどの子どもたちが挙手にて答えてくれた。嫌いなものについては、「嫌いなものでも食べることができたか？」と尋ねると下を向く子どもや無口になる子どももいたが、「食べたらいいかった」、「気に入らなかった」、「ピーマンは無理だった」、「もっとソースがあったら食べられた」という食材に対する反応を窺うことが出来た。またピザの生地についても「お餅みたいなピザだったけどおいしかった」と回答があった。この時間を設け数多くの反応を参加者から直接聞くことにより、幼児期の食生活の問題点についてもわずかではあるが改善方法について参加者に伝えることが出来た。

3・3 レクリエーション（担当教員：濱田英司）

第1回～3回は、保育学科「食育表現ゼミナール」所属学生（第1回3名、第2回2名、第3回3名）も本活動にボランティア参加し、①親子クッキングの班別調理活動の補助、②大型絵本読み聞かせ、以上2つを行ってきた。しかし、平成28年度と平成29年度は、所属学生不在のため、栄養健康学科2年生2名が食育大型絵本の読み聞かせを行った。平成30年度は保育学科男性教員1名と、保育学科学生ボランティア（2年生男子学生1名、1年生女子学生1名）が参加し、レクリエーションを行った。

前回のレクリエーションは教室中央での会食時における鑑賞であったため、大型絵本の読み聞かせを行う際、担当学生は立つ場所を移動し階段教室後方で本を開いた。しかし今回は、会食前のピザが焼き上がるまでの待ち時間で行ったため、参加者は教室後方の席に座った状態で鑑賞するようにし、担当教員及び学生は教室中央に立って進行するようにした。また今回は、前回までのように会食時に楽しむことが目的ではなく、会食前のピザが焼き上がるまでの時間を楽しみな気持ちで過ごすという事が主な目的であったため、紙芝居や大型絵本に加え、手遊び等、一部で参加型の内容も取り入れて行った。レクリエーション全体としては、調理作業を終え、ピザをオープンに入れてから、それが焼き上がるまでの20分間程度を想定した上で内容を構成した。当初は参加者全員が教室後方の席に着いてから始める予定であったため、調理の進行度合い等によって参加者の着席までに時間差が生じる場合も想定し、導入として簡単な手遊びをして、落ち着いてから始めようと考えていた。しかし実際は、調理から着席までの

流れがとても円滑に進み、子どもたちも落ち着いて待つことができていたので、当初予定していた手遊びは省略し、自然な流れでレクリエーションに繋げていくことができた。

そして今回、レクリエーションとして予定していた内容は、①紙芝居「ごきげんのわるいコックさん」、②手遊び「ごはん de ピザ」、③大型絵本「はらぺこあおむし」、④ミニマジック「色が付く不思議な絵」の4つである。

紙芝居の選定においては、①食育に関連する内容である、②3歳児でも分かりやすく楽しめる、③問いかけ等を含み、参加者と一体となって楽しめる、以上3点の目的から まついのりこ「ごきげんのわるいコックさん」に決定した。保育学科学生（2年生男子学生1名）が表現豊かに演じ、「何ができるかな」等と問いかけると、子どもたちの中からは、それに対し元気に応える様子も多く見られた（写真6）。



写真6 紙芝居「ごきげんのわるいコックさん」



写真7 手遊び「ごはん de ピザ」

続いて行った手遊びにおいては、当日の全体テーマがごはん de ピザであることを踏まえ、参加者も身振りや手振りで一体となって楽しめる手遊び「手のひらピザ」を基に、当日のレシピや具材に合わせて歌詞をアレンジした「ごはん de ピザ」を行った。そのため参加者も手を動かしたり掛け声を出していったりする事で、和やかな雰囲気を作り出すことができた（写真7）。

一方で、参加者は席に座って待つという限られた環境の中でレクリエーションに参加することにもなるので、手遊びを行った後は、着席したまま子どもたちも一旦落ち着いて鑑賞してもらえよう、大型絵本の鑑賞を取り入れた。

大型絵本の選書においては、①食育に関連した内容を主題とし、会食を楽しみな気持ちで迎えられる、②3歳児にも理解しやすく、比較的馴染みがある、以上2点の目的から、エリック・カール「はらぺこあおむし」を選書した。さらに今回は、鑑賞することを通して会食をよりいっそう楽しみな気持ちで迎えられるよう、大型絵本を読み聞かせるだけではなく、CDで「はらぺこあおむし」の歌が入っていない曲を流し、その場で歌いながら進めていくという技法で行った。全体的にほとんど私語はなく、時には体を左右に揺らしながら一緒に口ずさむ親



写真8 大型絵本「はらべこあおむし」



写真9 ミニマジック「色が付く不思議な絵」

子の姿もみられた（写真8）。

そして、ピザが焼き上がる時間に合わせて、最後にミニマジックとして「色が付く不思議な絵」を披露した。A4版の封筒の中央部分を切り抜き、クリアファイルに挟んだピザの絵を封筒から抜き出すと色が付いて見えるというものである。クリアファイルの中に色付きのイラストを挟み、外側に油性ペンで絵の縁取りをしたものの間に、白画用紙を挟んで作ったものである。それを保育学科学生（1年生女子学生1名）が「不思議な事が起きるよ」と子どもたちの期待を高める声掛けと共に封筒から絵を抜き出し、ピザの絵に色が付いて出て来た瞬間、参加者からは驚きの表情も多く見られた。さらに、絵の内容としてピザを用いたことで、レクリエーションを楽しんでいる間に焼き上がったピザに対する期待を高めることにも繋がった（写真9）。

3・4 アンケートの実施・集計・報告と省察

（担当教員：塩田博子・芳賀絵美子）

アンケート調査は、「おいしいね！」（食育）プロジェクトのみ実施した。アンケート記入（保護者対象）は、全体の流れが予定より15分程度遅れた上、後片付けも丁寧にさせていただいたため、閉会式後に行った。アンケートへの回答が終了し全員が退出したのは、終了予定であった12時を30分ほど過ぎた時間となってしまった。

アンケートの調査項目は昨年と異なる募集方法についての質問は省いたが、内容は集計後の比較検討を考慮し、ほぼ同内容とした。具体的には、次の4項目15問である。（図3）（1）参加者につ

平成30年度「おいしいねプロジェクト ～ごはんをピザを作ろう～」アンケート
 本日はお忙しい中、ご参加いただき誠にありがとうございました。
 本学の栄養健康学科と保育学科の特徴を活かした地域活動として、
 皆さまのご意見を聴かせていただきたいと考えております。

1. 本日の参加者についてお聞きします（複数名参加の場合は複数に○を付けて下さい）
 ご参加のお子様のお属性は（幼稚園・保育園・こども園・小学校・未就園）
 保護者（ ）人です。お名前（ ）
 差し支えなければ園・学校名を教えてください（ ）

2. 「親子クッキング」についてお聞きします
 ① クッキングの事前説明はわかりやすかったですか？
 よかったです ・ まあまあ分かった ・ あまり分からなかった ・ 分かりにくかった
 ② クッキングの説明は長かったですか？
 長かった ・ ちょうどよかった ・ 短かった
 ③ 親子で楽しく作ることができましたか？
 とても楽しかった ・ 楽しかった ・ あまり楽しなかった ・ 楽しくなかった
 ④ 自分たちで作ったものは美味しかったですか？
 美味しかったです ・ ふつう ・ 美味しくなかった
 ⑤ どの材料はお子さんの好みのものでしたか？
 好きなものは○、嫌いなものは×、どちらでもないものは△を記入してください。
 ピーマン（ ）しめじ（ ）トマト（ ）
 ⑤-1 上の回答で×と答えたが、食べることができたものは○を記入してください。
 ピーマン（ ）しめじ（ ）トマト（ ）
 ⑤-2 こんな材料がおすすめですといういいなと思うものを教えてください。
 （ ）

⑥ 自宅でも作ってみたいと思いませんか？
 思う ・ 思わない
 ⑦ 次回、親子クッキングでつづいてみたいメニューは何ですか？
 （ ）

3. 「レクリエーション」についてお聞きします
 ① 「手遊び」は楽しかったですか？
 とても楽しかった ・ 楽しかった ・ あまり楽しなかった ・ 楽しくなかった
 ② 「絵鑑賞」は楽しかったですか？
 とても楽しかった ・ 楽しかった ・ あまり楽しなかった ・ 楽しくなかった
 ③ 「ミニマジック」は楽しかったですか？
 とても楽しかった ・ 楽しかった ・ あまり楽しなかった ・ 楽しくなかった
 ④ 全体についてお聞きします
 ① 今日1日楽しく過ごせましたか？ はい、いいえ
 ② ご意見・ご感想をお聞かせ下さい
 （ ）

ご協力ありがとうございました。（下関短期大学「おいしいねプロジェクト」担当者一同）

図3 当日配布アンケート用紙

いて、(2)「親子クッキング」について【①クッキングの事前説明はわかりやすかったですか、②クッキングの説明は長かったですか、③親子で楽しく作ることができましたか、④自分たちで作ったものは美味しかったですか、⑤ピザの材料はお子さんの好みのものでしたか、⑤-1上の回答で×と答えたが、食べることができたものには◎を記入してください、⑤-2こんな材料がピザにのっていたらいいなおもうものを教えてください、⑥自宅でも作ってみたいと思いましたか、⑦次回、親子クッキングでつくってみたいメニューはなんですか】、(3)レクレーションについて【①「手遊び」は楽しかったですか②「紙芝居」は楽しかったですか、③「ミニマジック」は楽しかったですか】、(4)全体について【①今日一日楽しく過ごせましたか、②ご意見・ご感想をお聞かせください】以上である。なお、(3)の⑤-2、⑦、(4)の②は記述式とした。

集計方法は、エクセルを用いた単純集計である。参加の14家族中途退室した人家族を除き、13家族に配布し、13家族に回答していただいた。回収率は100%であった。

3・4・1 参加者について

チラシは前回までの本学での作成・配布とは異なり、家庭教育推進事業事務局が担当した。1章でも述べたように、参加対象を限定して募ったため、参加者は、幼稚園、子ども園、保育園で100%であった(図4)。申し込みは、親子15組で30名だったが、1家族欠席(2名)、1家族途中退室(2名)となったため、最後まで会場で過ごした家族は13組である。申し込みからすると13組26名であるが、実際は「家族合計()人で来ました」という質問について2人が7組3人が4組、4人が1組、5人が1組と答えている(図5)。このことから、13組26名のところ実施日が祭日「山の日」だったため、申込者以外の家族も同伴して来られる方が多く、合計参加人数は35名となり、9名の見学者がいたことが分かった。

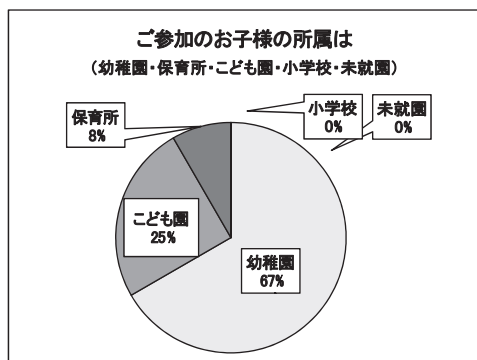


図4 お子様の所属は？

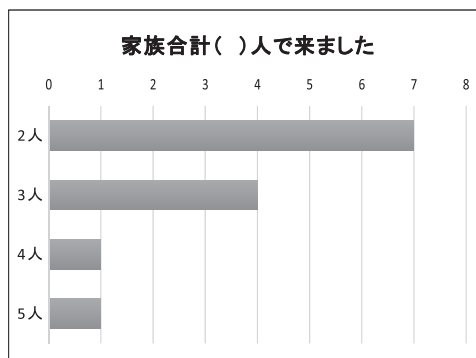


図5 家族合計()人で来ました？

3・4・2 調理実習について（担当教員：塩田博子、芳賀絵美子）

昨年度は開始から片付け終了までを約2時間30分取っていたが、今年度は2時間で全てを終了する内容にした。事前説明は、細かく説明すると時間が長くなり、時間を短縮すると説明不足になり、細かいところが子どもたちに通じないのではないかと毎年悩むところであった。「事前説明はわかりやすかったですか？」では、「よくわかった」が85%、「まあまあわかった」が15%で、「あまりわからなかった」「わかりにくかった」はともに0%であった（図6）。また、「説明は長かったですか？」では、「ちょうどよかった」69%、「長かった」31%であった（図7）。しかし、「あまりわからなかった」「わかりにくかった」はともに0%であったので、多少時間はかかっても、丁寧な説明をすることで参加者の理解が深まるものと推察された。

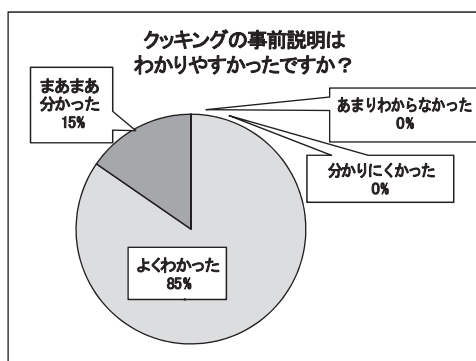


図6 クッキングの事前説明はわかりやすかったですか？

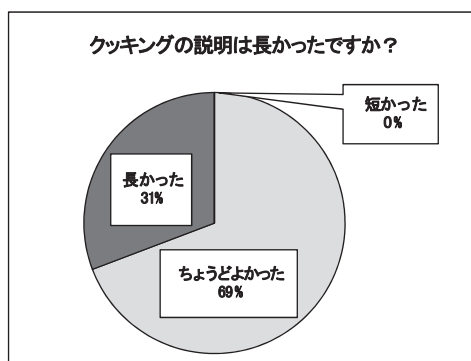


図7 クッキングの説明は長かったですか？

「親子で楽しく作ることができましたか？」については、「とても楽しかった」が83%、「楽しかった」が17%、「あまり楽しくなかった」「楽しくなかった」がともに0%であった（図8）。これは写真3, 4, 5のクッキング中や食事の様子からも窺える。また、後述する自由記述

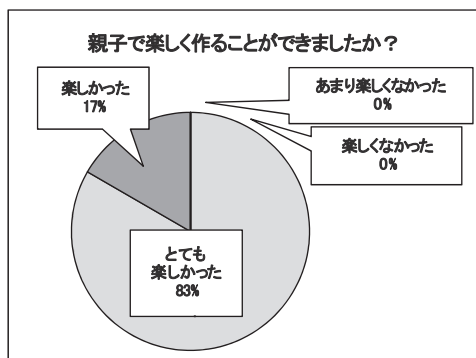


図8 親子で楽しく作ることができましたか？

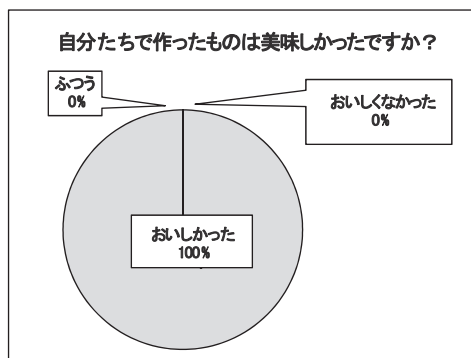


図9 自分たちで作ったものはおいしかったですか？

からも楽しくクッキングが出来た事がわかる (4・1・4)。

「自分たちで作ったものはおいしかったですか？」では、全員がおいしかったと回答している (図9)。従って、家族で楽しく作ることができ、おいしく食べることができたこのレシピは、幼児期の親子向けの献立として、適したものであると推察される。

材料については、講話の章で述べたように (3・2)、子どもたちが嫌いな食品としてあげられるピーマン、しめじ、トマトなどは、「ピーマン」はどちらでもない3人を除けば好きと嫌いが5名ずつと二分されている。しかし嫌いなピーマンでも食べる事ができた子どもは、5人中5人である。「しめじ」は、13人中10人が好きだが、嫌いなしめじでも食べる事ができた子どもは、2人中1人である。「トマト」は、13人中9人が好きだが、嫌いなトマトでも食べる事ができた子どもは、3人中1人である。(図10・11) 嫌いなものはどうしても食べられないという家庭があるが、これから家庭でも一緒に調理をする機会を増やし、少しでも嫌いなものがなくなっていくことを期待する。

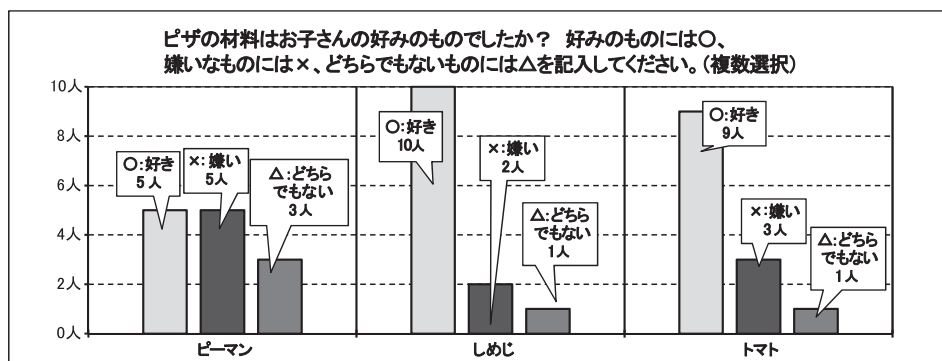


図10 ピザの材料はお子さんの好みのものでしたか？

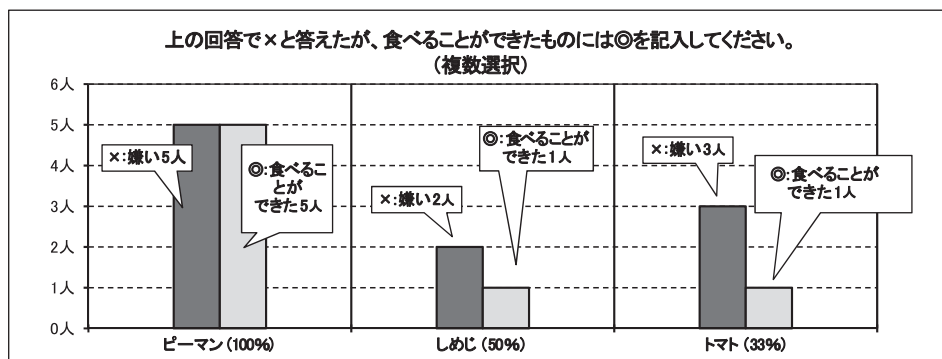


図11 上の回答で×と答えたが、食べることができたものには◎を記入してください。

「自宅でも作ってみたいと思いますか？」では、全員が帰って作ってみたいと回答している。(図12) これは嫌いな材料があるが同じように作るのかアレンジして材料を変えるのかは不明ではあるが、自宅でも作ってみたいという家庭教育推進事業の目的を達成した、とても興味深い内容であったと窺える。

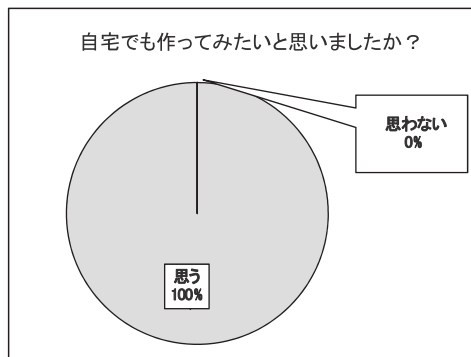


図12 自宅でも作ってみたいと思いましたか？

3・4・3 レクリエーションについて（担当教員：濱田英司）

ピザが焼きあがるまでの時間に行ったレクリエーションについて3つの質問を行った。

1つ目の質問、「手遊びは楽しかったですか？」では「とても楽しかった」92%、「楽しかった」8%で、全ての参加者が楽しめたことが分かった(図13)。2つ目の「紙芝居は楽しかったですか？」という質問に対しても「とても楽しかった」85%、「楽しかった」15%で、全ての参加者にとって、分かりやすく楽しめる内容の読み聞かせであったことが分かった(図14)。

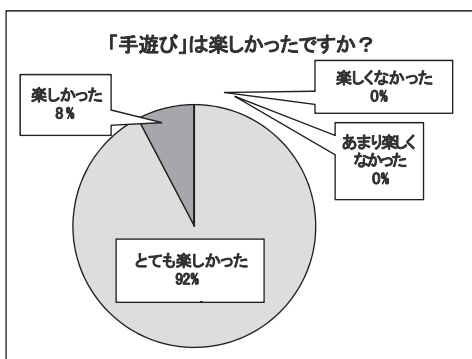


図13 「手遊びは楽しかったですか？」

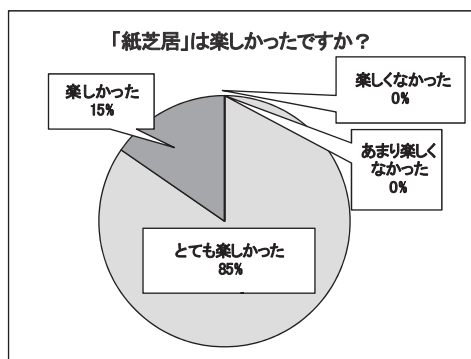


図14 「紙芝居は楽しかったですか？」

さらに3つ目の「ミニマジックは楽しかったですか？」という質問に対しても、「とても楽しかった」77%、「楽しかった」23%で、一様に全ての参加者にとって楽しめる内容であったことが窺えた(図15)。

全体的にレクリエーションを楽しめた理由として、①会場の配置等の環境、②担当学生の実践経験、③レクリエーションを実施する時間帯が挙げられる。

1点目の会場の配置等の環境については、参加者が直接調理を行う時間ではなかったこともあり、教室後方の座席に移動して行ったことが良かったと思われる。前回のアンケートで「絵

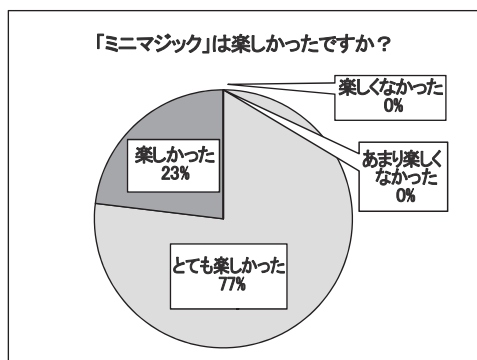


図 15 「ミニマジックは楽しかったですか？」

本が見えにくい場所（角っこで見えにくい）での読み聞かせだった」という記述があり、子どもの前に大人が座った場合も想定し、全員から見やすいように配慮する必要があった。今回、参加者が座った座席は教室中央より後方に向かって階段状になっていて、全員から見やすく、また参加しやすい配置になっており、特別な配慮は必要なかった。

2点目の担当学生の実践経験については、当該学生が実習やボランティアへの参加等を通じて経験を積んでおり、今回担当した内容についても実践経験が比較的豊富であったことが挙げられる。

3点目のレクリエーションを実施する時間帯については、前回までと内容を変更して行った。今回のレクリエーションに相当するものとして、第3回目以降、会食終了前に読み聞かせを行っていた。しかし前回、参加者アンケートの中で「食事中に絵本は集中できませんでした」という食事を終えていない家族からのご意見があった。前回までは、午前：親子クッキング、午後：大型工作、という活動に加えて活動内容が過多になっている傾向があったため、実施内容について再度、検討を行ったこともあり、今回のレクリエーションでは、待っている時間を有効に活用して、楽しむことに主眼を置いた参加しやすい内容であったことがアンケート結果にも反映されているものと思われる。

3・4・4 「おいしいね!」（食育）プロジェクトの総合評価と参加学生の感想

（担当教員：塩田博子）

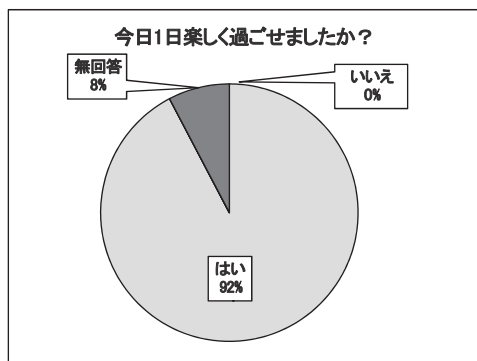


図 16 今日1日楽しく過ごせましたか？

まず「おいしいね!」については、「今日一日楽しく過ごせましたか？」という質問に対しては、無回答の8%（1名）を除いて、「はい」が92%、「いいえ」は0%である（図 16）。記述での意見や感想は、以下のとおりである。

- 楽しかったのでまた参加したいです。準備、後片付けありがとうございました。
- 子どもが自主的に参加しているのが嬉しかったです。また、機会があれば参加したいです。

す。ありがとうございました。

- ハートを2つ作れて楽しかった。
- 子どもが安全に料理でき、楽しめてよかったです！！
- 初めて包丁を使わせたのでいい機会になりました。家でもさせてみたいと思います。日頃、下の子がいて時間が取れないので上の子とゆっくりした時間を過ごせてよかったです。
- なかなか家では料理をさせる事はないので、とてもいい経験になりました。
- 自宅ではなかなかお手伝いや一緒に料理をさせる機会がないのでとても良かったです。また参加させたいと思います。
- 楽しくつくれました。苦手なしめじも食べれました。子どもが包丁を使うのにより機会になりました。家で教える事以上に教えてもらえてよかったです。
- とても楽しく参加することができました。ありがとうございました。次回は家で父親に作ってあげるそうです
- 今日は親子共々とても楽しい時間を過ごすことができました。男の子なので、日頃ほとんど手伝いをする事がないので、今日の経験はすごくいいものになりました。これを機に、家で包丁を持たせたり、台所に立ってもらう時間を作っていきたいと思います。ありがとうございました！！
- 子どもが真剣に包丁を使ったり、めん棒でこねる姿が印象に残りました。また来たいと思いました。ありがとうございました。
- 家でするのはなかなか大変なので助かりました。片付けからいろいろとありがとうございました。
- とても楽しい時間を過ごすことができました。ピザがボリューム満点で、2人で食べるとお腹いっぱいになりました。

以上、多くの意見や感想の中から、包丁には不安があり、持たせることが無かったことや、自宅でも手伝わせたい、家族に作ってあげたい、上の子とゆっくりした時間を過ごせてよかった、スタッフへのねぎらいの言葉など保護者の気持ちを感じることができた。また、親子にとっての良い交流の場となったと思われる。このことから、親子クッキングは当初の目的である「家庭教育推進」としての【①親子一緒に楽しく調理、食事をするなどを通じて親子の交流を深める。②調理中の安全と衛生を楽しみ環境の中で身につける。③親子への講話を行い、幼児の食生活の大切さ・季節の食材について親子で考える。④一連の中で「食」への興味・関心を深める。】を達成することができたと考えられる。これらのことから、家庭でも保育の場でも、厚生労働省の「楽しく食べる子どもに一保育所における食事に関する指針一」の基本構造⁹⁾に通じるところが、今回の活動で、しっかり表現出来たと認識することができ

た。

次回親子クッキングで作ってみたいメニューは、「クッキー」、「パン」、「みそ汁などの家庭料理」などが挙げられていた。これらについても、来年度の実施に向けての献立課題として検討したい。

実施終了後にスタッフとして参加した学生の感想（栄養健康学科2年4名、卒業生2名、保育学科2年1名）は、以下のとおりである。

<調理前>

- ・手洗いの真似をしてくれた
- ・今までは班が決まっていたが、今回は作業する台が決まっていないので、決めていたほうがスムーズかなと思った

<調理中>

- ・包丁を使うときは誰も目を離さないようにしないといけない
- ・子どもが積極的に自分から作業していた
- ・色々な形を作ってくれた
- ・けがをした子もいましたが、包丁を振り回したり危ないことをする子がおらず、安全に調理ができてよかったです
- ・ライスピザは、お米を完全につぶす気持ちで作るといいかも…
- ・生地が厚めより薄めのほうが私は好きだと思いました
- ・把握できていないことが多くあった
- ・米をどれだけ練るかが全く分からなかった
- ・包丁をすばすば使っていて少し怖かった
- ・子どもがするので少し時間がかかった
- ・幼児も積極的に野菜を切ったり、ピザの盛り付けをしていた
- ・子どもが進んでしていた。普段からも手伝っているらしい
- ・班の中で、切り方の速さ、丁寧さが全然違った
- ・子どもが親に切り方、洗い方を教えてもらい、一生懸命に作っていた
- ・上手に包丁が使えた時の子どもの笑顔がとても輝いていた
- ・1家族分ごとに作業が行えたので「切っていない」「少なかった」等気にすることがなく、気楽にできた。また、そのほうが移動やサポートすることがスムーズかなと思った
- ・天板に対してピザが入りにくそうだった
- ・テーブルで仲がいい人たちがスラスラしてくれた
- ・洗い物をこっちでしたのでスムーズだった

<食事中>

- ・ピーマンが嫌いでも食べている人がいた
- ・きのこ類が苦手と言っていた子がいたが、今日は食べると言っていて食べていた
- ・量が多いのか残食が多かった
- ・食べているときに、「おいしかった」「また作りたい」などの声が聞こえた

<食後>

- ・皿洗いの仕方を言わなくてもわかっている子がいた→お母さんの真似をしている
- ・家でも作ってみたいという人が多くいた

<親子の様子>

- ・親子での会話が増え、コミュニケーションをとる姿が多く見られた
- ・親子がちゃんとコミュニケーションが取れていると思った
- ・親子の会話が多く見られた

<家族とスタッフの様子>

- ・最後の大きな声で、2人の女の子が「ありがとうございます」と言ってくれたのが嬉しかった
- ・お母さんに子ども慣れしているといわれた
- ・子ども同士のコミュニケーションも多く見られた
- ・最初は緊張しすぎていて私から話しかけることができなかった。後半になると緊張よりも楽しさが勝ち、話すこともできたため良かった
- ・子どもは好きだが、子どもとかわることがあまりなかったためとても不安だった。栄養士の校外実習もこども園なので、今回の教室は良い経験になった。
- ・自分から声をかけていくことができなかった
- ・私はサポート役でしたが、逆にお母さんたちにサポートしてもらったりしていました
- ・最初はなかなか話してくれなかったが、少しずつ話してくれてうれしかった
- ・日ごろから手伝いをしていると言っていた

<その他>

- ・食事を作ること、食べることの楽しみが十分に伝わったと思う
- ・栄養士として、食事を作る、食べる楽しさ、食事の話が少しでも出れるように興味の沸く食事や食育をしていきたいです
- ・2組ずつの担当だったが、保育学科の学生スタッフが手伝ってくれたので助かり、1組のみにつきっきりになることがあった。
- ・ご飯でピザが作れるとは思っていなかったため、驚いた
- ・子どもがどうゆう献立だったら喜んで食べてもらえるか、どのように接すればよいのか
- ・美味しいと思ってもらえるような、食べるのが楽しいと思ってもらえるようにしたい

- ・みんな明るく楽しく作れたと思う

<レクリエーション>

- ・手遊び、紙芝居、絵本とてもうまくいったと思う
- ・子どもだけではなく、保護者のほうも楽しんで行ってくれていた

<テレビインタビュー内容> (NHK山口放送局の取材による「情報維新!山口」内「GOTOキャンパス」コーナー (NHK総合・山口放送) で9月6日に約6分間の放映)

- ・「この教室に参加した子どもたちに今後どうなってほしいか？」
→お母さんもしくはお父さんの料理を進んで手伝ったり一緒に楽しく料理をしてほしい
- ・「どのような栄養士になりたいか？」
→今回の教室で学んだことを活かすことができるような、気軽に話しかけられる、相談できるような栄養士になりたいと思います

以上であるが、これらのことから、学生スタッフについては、スタッフが各班についたことにより、班の中で、調理の運びや器具の整理などがスムーズにいったと思われる。また、学生も親子、各家庭間とコミュニケーションをとることができ、その中で、食について多くの声を聴くことができ、栄養士・保育士としての仕事の内容を学ぶことができたと思われる。

4 「たのしいね!」(工作)プロジェクト「竹風鈴作り」

(担当教員：吉原達也・堀尾昇平)

4・1 題材設定の経緯と目的

山口県は全国で第4位の竹林面積を有し¹⁰⁾、竹林整備の必要な地区も多く、整備活動のボランティア団体も存在する。また、下関市には王喜地区など有数の筍の産地がある。身近な素材である竹を材料とした「竹風鈴」を作ることを通じて親子の交流を深めること、時期的に夏休みの自由研究の宿題の一助とすることを目的とし、下関市家庭教育推進事業として実施した。

竹という素材は中が空洞であるため、音を共鳴させやすく、世界各地に竹を材料とした民俗楽器が存在する。本学も保育学科の授業内で竹楽器を作成し、演奏する活動を行っているが、小学生対象の本企画では1時間30分という時間の制約もあり、楽器の制作は困難と判断し、比較的制作しやすく、夏という季節が感じられる「竹風鈴」を選択した。竹の表面は非常に硬く、加工は鋸、ナイフやドリルを使用するので、竹材のカットの段階までは担当で加工をし、準備することとした。竹風鈴は3本の竹を吊るし、その中心に吊るした短冊が風に吹かれ、揺れることで音が鳴る構造とした。

今回の活動の中で①親子で協力し夏休みの自由研究課題を制作する。②日頃馴染みのない工

具を使用する機会とする。③竹という素材に親しみ、竹林整備の現状を知る機会とする。ことを目的とし、題材を設定した。

4・2 制作に向けた準備

竹風鈴の制作にあたって以下の材料、道具を準備した。

【材料】

淡竹（直径3cm程度、長さ20cm～30cm）…3本、
（節の部分、長さ5cm）…1本、孟宗竹（節の部分、直径10cm程度、長さ10cm程度）…1本、タコ糸（長さ20cm）…3本、（長さ80cm）…1本、短冊用紙（幅5cm、長さ20cm）…1枚、ストロー片（長さ1cm）…2本

【道具】

電動ドリル（アルミ用）、竹挽きノコギリ、切り出しナイフ、紙やすり、カセットボンベコンロ、軍手



図17 「たのしいね! プロジェクト」配布プリント



写真10 カセットコンロを使った油抜き作業



写真11 淡竹を約20cmに切る学生

3本の竹の材料は音が鳴りやすいように細く、肉厚の薄い淡竹を選択した。竹材は採取してすぐは、水分、油分が残っているため材料には不向きである。また、採取時期も栄養分の少ない11月～2月頃に限られるため、開催年の2月に採取して約5か月間乾燥させた竹を使用した。

また、油分を抜くため、カセットコンロの火で下から炙り、にじみ出てきた油を拭き取る「油抜き」の作業も事前に行い（写真 10）、参加者にはその方法を実際に見てもらい、説明をした。

以上の加工を施し、刃物の扱いに不慣れな小学生、保護者でも安全に制作ができるよう、保育学科の学生達と事前準備を行った。（写真 11）

4・3 制作方法

孟宗竹の淵に3本の淡竹（長さ 20cm～30cm）を下げるために、等間隔になるよう3か所、タコ糸が通る大きさの穴をドリルで開ける（写真 12）。淡竹の上部にも穴を開け（写真 13）、タコ糸（20cm）で孟宗竹にぶら下がるように3か所に結び（写真 14）、それが音を発する舌の部分になる。

淡竹の形状は単なる筒状でも良いが、（図 18）のような形状に加工を施すと格段に響きが増

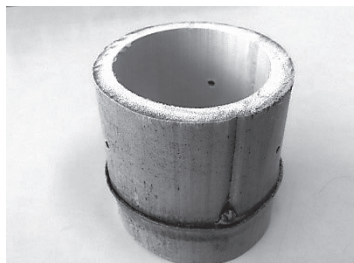


写真 12 3か所の穴の位置

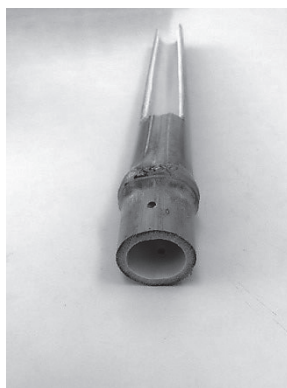


写真 13 淡竹の穴の位置



写真 14 淡竹を孟宗竹に結びつける



図 18 横から見た淡竹の形状

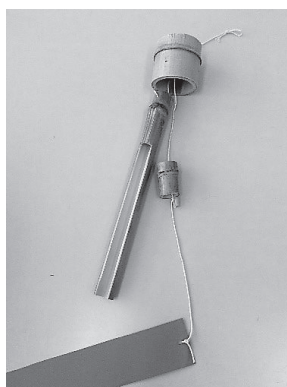


写真 15 ストロー片を結び孟宗竹に紐を固定する

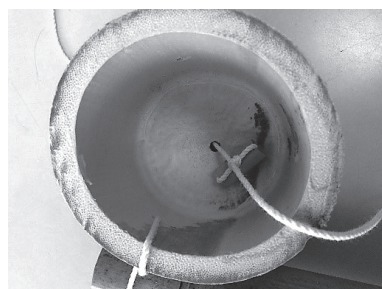


写真 16 淡竹（長さ5cm）の位置と短冊の位置

すので、切り出しナイフによって削っていく。

孟宗竹の節の中心部分に、穴を開け短冊用のタコ糸（80cm）を通し、ストロー片を結び孟宗竹の部分を固定する（写真15）。その下方に節の中央に穴を開けた淡竹（長さ5cm）を通し同様にストロー片で固定し、下端には短冊を結びつける（写真16）。紙やすりによって竹材の端等の尖った箇所を削り、短冊には参加者が思い思いに絵や文字を書き完成させる。

4・4 制作の実施状況

参加者は親子8組（保護者8名、小学生児童9名）で、夏休み中であることから、自由研究の宿題提出のための作品作りが目的であった。

今回の参加者には小学校低学年児童もおり、安全への配慮を第一に考え、また、1時間30分という時間的な制約から、竹材への穴あけ、淡竹の開口部分のカットまで加工をした材料を提供した。ただ、普段使い慣れない工具を使う機会とするために、音のなる舌の部分となる淡竹を鋸や、切り出しナイフを使用するために残し、親子で協力しながら制作できるように配慮した。鋸で切る、切り出しナイフで削る、キリで穴を開ける、ヤスリがけをする、タコ糸を結ぶなどを体験し、工具の使い方や、制作手順を会話しながら確認し、手を取り合う姿は微笑ましい光景であった。保護者は全員が母親であったため、男児の方が手際よく工具を使いこなし、母親が感心する場面もあった。また、児童同士で声を掛け合い交流する場面も見られた。保護者でも工具の使用に戸惑う場面もあり、保育学生のサポートが非常に助かった（写真17）。おかげで時間内に完成することができ、最後にお互いの作品の音を鑑賞し、有意義な時間を終えることができた（写真18）。



写真17 学生によるサポート



写真18 お互いの音色を鑑賞し合う子ども達

制作過程で一番手間取った箇所がタコ糸での結束である。今回は綿のタコ糸を使用したのが、切れ端がほつれてしまい、穴に通すことが困難で時間をとってしまった。今後はテグス等への材料の変更を考えていきたい。

学生達は本講座に向けた事前準備の中で、自身が鋸などの工具を使う事で、支援の方法を考慮し、鋭利な材料のヤスリがけをし、棘がないか確認することで、子ども達の安全への配慮について、実感した。また、当日は幼稚園や保育所の実習では出来ない、就学児童との関わりを持つことで、未就学児との発達差、声掛けや支援の違いなどを発見する機会となり、保護者への対応なども含め、今後の実習へも活かされる経験となった。

5 おわりに ー今回の反省と今後についてー

後日行った教員の反省会をまとめて記載する。

「おいしいね!」(食育)プロジェクト

(ごはんdeピザの調理)

- ・説明が少し長かった(必要不可欠ではあるが)
- ・調理作業が長くかかってしまい、全体終了が12:30くらいになった
- ・各班に学生を配置することができてよかった
- ・取材が入り、学生は終始緊張していた
- ・ピザの分量が多い
- ・申し込み者以外のお子さんやご主人を連れてこられており、人数把握が難しかった
- ・ピザの材料配分は、全班同じ分量ということもあり分かりやすく良かった
- ・学生がよく頑張った

(レクリエーション)

- ・意識の高い二人で、人数的にもよかった
- ・試食までの楽しい気持ちを維持できた
- ・ピザを取り入れたレクリエーションでとても良かった

「たのしいね!」(工作)プロジェクト

- ・前日までに下準備・当日は組み立てる程度
- ・工具の持参は半数、持参されてない家庭は工具を貸し出した
- ・準備～後片付けまで学生が活躍してくれた
- ・学生は参加者とコミュニケーションをとれていた
- ・普段は使わない工具に触れる経験となった
- ・タコ糸の先がほつれて扱いにくかった(次回はテグスや釣り糸に変更したほうが良い)
- ・今回は刃物を使用したので対象は小学生としてよかった(幼児は難しい)
- ・夏休みの宿題として活用してもらえた

以上のように、どちらの講座に関しても参加者が満足し、また、学生が活躍できる貴重な機

会であった。

これらのことから「おいしいね！」プロジェクトでは、アンケート結果や各回終了後に開催したボランティア学生を交えた反省会をふまえて、6つの観点（班分け・託児について、献立、調理、食育関連の説明・講話、一日の流れ、ボランティア学生の参加）に分けて、「たのしいね！」プロジェクトでは、総合的な反省・考察、今後の展望について述べる。

「おいしいね！」（食育）プロジェクト

【班分け・託児について】

「おいしいね！」では、1班2家族配置だが調理作業は家族単位で行い、「たのしいね！」では班は作らずに家族単位で活動した。「おいしいね！」に参加した学生の感想にも「1家族分ごとに作業が行えたので『切ってない』『少なかった』等気にすることがなく、気楽にできた。また、そのほうが移動やサポートすることがスムーズかなと思った。」とあり、今後もこのスタイルで行うほうが時代の流れに即していると感じた。

託児は今年度実施できなかったが、乳児を連れて来られる方も多く、検討の余地がある。

【献立について】

今年度は時間的な制約から「ごはん de ピザ」のみとした。栄養量的には満たされていないが、アンケート結果からもわかるように「楽しく」「おいしく」作れ、特に負担であったという意見がみられないことから作業量は適切であったと考える。今後も、講話の中で栄養量を充たすには何が足りないのかを伝えることは怠らず、今回程度の作業量にとどめることで家族がコミュニケーションをとりながら楽しく作ることでできる献立作成に努めたいと思う。

【食育関連の説明・講話について】

今年度は、家庭教育推進事業ということで、時間制限があり、食事時間を多くとることができず、調理に使用した食材の好き嫌いとアレルギーについての講話を短時間行った。本来であれば、昨年同様の媒体を使用して講話や、媒体の展示を行いたかったが、今回は十分な準備時間が取れず、できなかったことが残念であった。

【一日の流れについて】

今回は、それぞれ開催日を分け午前のみの実施であった。結果として「おいしいね！」と「たのしいね！」は、昨年度のような統一テーマのものではなく対象者も異なる独立した講座となった。そのため、一昨年度からの懸案であった「時間の長さ」は解消することができ、参加者および教員・学生の負担を減らすことができた。

今後は、本学の地域貢献事業として「おいしいね！」と「たのしいね！」を関連付けるのか独立させるのかを熟考し、その上でいかに2学科の専門性を活かした本学の良さをアピールしていくかを考えていく必要がある。

【ボランティア学生の参加について】

今回の学生ボランティアは「おいしいね!」栄養健康学科4名、保育学科2名であった。また、「おいしいね!」には、栄養健康学科卒業生3名が参加した。学生の声として「自分から声をかけていくことができなかった」「子どもが苦手だが今回参加してよい経験になった」「最初はなかなか話してくれなかったが、少しずつ話してくれてうれしかった」など、実際の現場を経験することで自分のボランティアとしての姿勢を反省したり、逆に自分に自信を持つことができたりした学生もいた。したがって、今後も学生における実践的学習の場としてボランティア学生の参加は継続していきたい。

「たのしいね!」(工作)プロジェクト

「たのしいね!」(工作)プロジェクトは保育学科9名のサポート学生が参加した。

今回は参加者へのアンケートを行わなかったが、次回は講座受講の目的、興味関心、難しかった点、工具使用の経験、他に作ってみたい竹楽器などのアンケートをとりたい。また、参加学生に対しても支援時の配慮、声掛け、反省点等の振り返りを行い検証し、今後の講座開催への参考としていきたい。そして、刃物を使用することでの安全への配慮が最も懸念される所であったが、ある程度までを加工することで怪我をする参加者もなく、安堵するところである。なかなか使う事のない工具を扱い、身近にあるが、なかなか触れることのない竹に触れる夏休みならではの講座であり、親子のふれあいのひとときとなった。作品を完成させた達成感と喜びは、音を鳴らした時の子ども達の笑顔から読み取ることが出来た。

竹という素材を通した地域文化への理解、親子での共同作業による家庭教育推進、自然素材による音世界への興味、という意義を持つ本講座であったが参加家族、市職員、本学生、本学教員の交流の場となり、竹風鈴の優しい音と相まって、暖かい雰囲気を持つ機会となった。今後も竹という地域的に身近な素材を基に、自然素材による音世界の創造、保育現場での活用を模索していきたい。

引用・参考文献

1) 内閣府ホームページ

<http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9929094/www8.cao.go.jp/syokuiku/about/plan/index.html>

2) 下関市編集発行：「下関ぶちうま食育プラン」, pp. 46, 2008年

下関市編集発行：「第2次下関ぶちうま食育プラン」, pp. 50, 2014年

下関市編集発行：「第3次下関ぶちうま食育プラン」, pp. 46, 2018年

3) 塩田博子・高杉志緒・芳賀絵美子・稲員祥子：「第1回「おいしいね たのしいね」公開講座開催報告」『下関短期大学紀要』32号, pp.67-92, 2014年3月

4) 塩田博子・稲員祥子・高杉志緒・芳賀絵美子：「第2回「おいしいね たのしいね!」公開講座開催報告」『下関短期大学紀要』33号, pp.53-71, 2015年3月

- 5) 塩田博子・高杉志緒・芳賀絵美子・稲員祥子：「第3回「おいしいね たのしいね！」公開講座開催報告」『下関短期大学紀要』34号，pp.43-66，2016年3月
- 6) 塩田博子・堀尾昇平・高杉志緒・芳賀絵美子・濱田英司：「第4回「おいしいね たのしいね！」公開講座開催報告」『下関短期大学紀要』35号，pp.45-68，2017年3月
- 7) 塩田博子・堀尾昇平・高杉志緒・芳賀絵美子・濱田英司：「第5回「おいしいね たのしいね！」公開講座開催報告」『下関短期大学紀要』36号，pp.73-97，2018年3月
- 8) NHK 山口放送局情報維新！やまぐちホームページ <http://www.nhk.or.jp/yamaguchi/ishin/campus.html>
- 9) 厚生労働省：「楽しく食べる子どもに一保育所における食育に関する指針一」2004
http://www.i-kosodate.net/mhlw/i_report/eat_edu/report2/index.html
- 10) 林野庁「平成29年度森林・林業白書参考資料」2018